

国指定文化財 4件



1 木造薬師如来立像



2 密蔵院多宝塔  
(附棟札5枚)



3 二子山古墳



4 絹本着色聖宝像

詳細については、次ページにあります。

## 1 木造薬師如来立像

(もくぞうやくしによらいりゆうぞう)



【区 分】

国指定

【種 別】

彫刻

【時 代】

平安時代

【サイズ】

像高 97cm

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。この薬師如来像は平安時代後期の作品で、頭と体部を一体の材で造り前後で割る割矧造(わりはぎづくり)で、表面は素地のまま仕上げられています。顔は丸くふっくらとし、衣文の彫りは浅く、左手には薬壺を執り、右手は施無畏印(せむいいん)を結ぶ立像で、密蔵院本尊として祀られ、秘仏とされています。

---

### [割矧造]

一本の木からおおよその形を彫刻した後に前後に割り、内部をくりぬいてから再びもとのように接ぎ合わせる技法。

### [施無畏印]

五指を立て、肩の高さに掌を外に向け掲げる印相。衆生に安心を与えることの象徴。

## 2 密蔵院多宝塔(附棟札5枚)

(みつぞういんたほうとう(つげたりむなふだ5まい))



【区 分】

国指定

【種 別】

建造物

【時 代】

室町時代

【サイズ】

塔高 16.539m

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。この多宝塔は室町時代に建てられたもので、屋根には裳階(もこし)が付けられ、正面の扉には棧唐戸(さんからど)が使われているなど禅宗様式が取り入れられている点が特徴です。昭和27・28年(1952・1953)に解体修理工事が行われ、その後昭和52年(1977)、平成14年(2002)には柿葺き(こけらぶき)屋根の葺き替え工事が行われました。

[裳階]

屋根の下に設けられているもう一段の屋根。

[棧唐戸]

縦横に棧が入った戸。

[禅宗様式]

鎌倉時代に禅宗とともに中国から伝来した建築様式。

[柿葺き]

材木を細長く削り取った板を重ねて屋根を葺くもの。

### 3 二子山古墳

(ふたごやまこふん)



【区 分】

国指定

【種 別】

史跡

【時 代】

古墳時代

【サイズ】

墳長 94m

【所有者等】

春日井市

【所在地】

二子山公園内

(二子町2丁目11-5・6)

二子山古墳は、墳長 94m、盾形の周溝を含む全長 116m の前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)で、6 世紀前葉の築造と考えられています。二子山古墳を始めとする味美(あじよし)古墳群は、現在 3 基の前方後円墳と 1 基の円墳を残すのみですが、かつては 20 基以上の古墳が存在していたと考えられています。墳丘の発掘調査は行われていないため、埋葬施設等は不明ですが、二子山公園の整備に伴って実施した古墳周辺の発掘調査では、盾形周溝の外側で新たに確認された溝から、大小の円筒埴輪や人物・馬・家などの形象(けいしょう)埴輪のほか、蓋坏(ふたつき)・脚付四連坏(きゃくつきよんれんぱい)などの須恵器が出土しました。これらの出土品は、東山町地内に現存する「下原古窯跡群」から供給されたと推定され、生産地と供給地が明らかな極めて貴重な事例です。なお、出土品の一部は中央公民館内の「民俗考古展示室」や二子山公園内の「ハニワの館」に展示されています。

〔周溝〕

古墳の周囲にめぐらせた溝。周濠とも呼ぶ。

〔前方後円墳〕

円形と四角形を組み合わせた鍵穴のような形をした古墳時代の墓。

〔須恵器〕

窯で焼成された硬質のやきもの。

## 4 絹本着色聖宝像

(けんぽんちゃくしよくしょうぼうぞう)



【区 分】

国指定

【種 別】

絵画

【時 代】

南北朝時代

【サイズ】

タテ 131cm × ヨコ 115cm

【所有者等】

林昌院

【所在地】

林昌院

(田楽町 1716)

田楽(たらが)町にある林昌院は16世紀に創建されたという高野山真言宗の寺院で、尾張地方の修験道(しゅげんどう)の中心的な道場でした。本図は、京都醍醐寺を開山した名僧聖宝(しょうぼう)(諡号を理源大師という)の肖像画で、右手に五鈷杵(ごこしよ)を持ち、牀(しょう)の上に座っている姿を描いたものです。旧袂背の墨書銘「開山尊師御影教阿弥筆醍醐山釈迦院什物」から醍醐寺にあった画像を基に描かれ、現袂背の墨書からは応永25年(1418)に修理されたものと考えられています。

[修験道]

山岳で修業を積み、そこで得た呪術によって祈祷(きとう)を行う山岳宗教。

[醍醐寺]

京都市にある真言宗醍醐寺派の総本山。

[五鈷杵]

迷いを打ち破るという意味を持っている法具「金剛杵」のうち先端が五つに分かれているもの。

[牀]

法会などの際に高僧が使用する椅子。